

# 消防団活動にご協力お願いします

以前は、自営業や農家などの団員が大半を占め、団によっては、希望しても人数が多くて入れないという状況でした。現在では、団員のほとんどがサラリーマンです。消防団世代の人口が減少しているうえ、価値観が多様化したこともあって、団員の確保が大変難しくなっているのが現状です。

火災や水害の被害から率先してまちを守る消防団。東海地震も心配される今、改めて消防団の意義を考えてみる必要があるのではないだろうか。

団員の確保が難しくなっている現在、団員の皆さんはもとより、家族や会社など、団員を取り巻く皆さんの消防団活動への理解が必要です。

消防団を運営するための環境づくりに市民の皆さんのご協力をお願いします。

消防団に入りたい方は、地域の消防団か消防本部（☎44-6092）までご連絡ください。

## ～消防団からのお知らせ～

### めざせ日本一防火のまち 袋井消防フェスタ

市民の皆さんに、火災予防に対する知識と関心を高めてもらい、安心して暮らせるまちづくりを目指して開催します。体験コーナーやゲームコーナー、飲食模擬店コーナーもあります。ご家族そろってお越しください。

日 11月5日(日) 雨天の場合は11月12日(日)

時 午前9時30分～午後2時

所 原野谷川親水公園

内容 消防団ラッパ隊のドリル演奏やはしご車体験、レスキュー体験、消防車一斉放水など



### 住宅用火災警報器の設置をお願いします

消防法および袋井市森町広域行政組合火災予防条例により、すべての住宅に住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。

新築住宅は平成18年6月1日から、既存住宅は平成21年5月31日(日)までに住宅用火災警報器を設置してください。

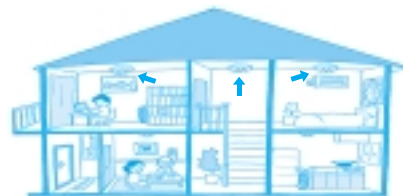
☎袋井消防本部予防課 ☎44-5114



壁取り付け式



天井・壁取り付け式



配線のいらないものなら、ホームセンターや電気店などで販売しています。基準に合格したものには、日本消防検定協会のNSマークがついています。購入の目安として選びましょう。

住宅が火災になった場合、家族が逃げ遅れないように寝室や階段などに取り付けてください。また、火を扱う台所などにも設置しましょう。



## 「消防から始まる人づくり 地域づくり」

### 袋井市消防団

団長 山田享史たかしさん(西区)

私自身、消防団活動を始めて10年が経ちました。分団長として、分団をまとめる立場から、本部役員を経て、今年の4月に団長になりました。

消防団は今年4月、「袋井市袋井消防団」と「袋井市浅羽消防団」が合併し「袋井市消防団」に組織が変わりました。

現在は、16個分団・団員614人の団員がいます。火を消すだけの消防団活動ではなく、消防団活動を通じて培われる人間関係はいつまでもその人の財産として残ります。そのような消防団活動を行えるよう日々考えています。

消防団員の確保は、年々難しくなっていますが、地域の皆さんの協力により、現在の組織を維持運営していくことができています。

訓練や火災、水害などでの出勤など、家庭から離れることも多くなるかも知れませんが、活動を通して得られる人や地域とのつながりは、とても大きなものです。消防団を退団した団員の多くは「初めはいやだったけど、いろんな人と巡り会えてよかった」「地域活動に貢献できた」など「やってよかった」という意見がほとんどです。

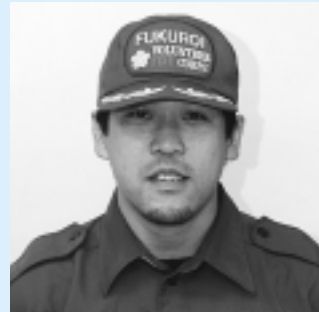
消防団活動してみたいと思ったら、迷わず地域の消防団か消防団本部に連絡してください。



## 「地域住民の生命と財産を守る」

袋井方面隊第2分団 分団長

山田義輝よしてるさん(掛之上北)



「まさか自分が分団長になることはないだろう」そう思うほど、新入団員当時の私には、分団長は遠い存在に感じていました。火災や日ごろの訓練、非常招集演習などでの分団長の指揮力や統率力は、私にはない能力だと決めつけていました。しかし、昨年、庶務班長という役員をやってみて、「分団長をやってみようかな」という気持ち芽生えてきました。消防団活動を一生懸命やればやるほど家族に迷惑がかかることも分かっていたのですが、「やらなくて後悔することはあっても、やって後悔することはない」と思い分団長を引き受けました。

分団長として、消防団員として「地域住民の生命と財産を守る」という言葉は、よく耳にしますが、分団長になったことで今まで以上に重みのある言葉になりました。いつ起きてもおかしくない東海地震や風水害などに対する消防団の役割は重要だと考えるからです。

消防団員だけでできることは限られています。これからは、消防技術の習得だけでなく、地域の自主防災隊、自治会との連携の強化が必要だと思います。団員一人ひとりが地域から信頼され、頼りにされるような活動をこれからも続けていきたいと思っています。

## 「仲間との消防団活動」

浅羽方面隊第3分団 団員

渥美直史なおふみさん(富里下)



今年、消防団に入団しました。仕事を転職し、時間の融通がきくようになったことと、周囲の同年代の友人や知人が入団していて、毎年「消防団に入ろうぜ!」と誘ってくれたことが大きな理由でした。

ですから、当初は消防団について特に興味もなく何となく入団していたというのが本音だったような気がします。しかし、今では、消防団活動に興味が出てきました。それは、消防団消防操法査閲大会に分団の代表として出場したことです。大会のための訓練は5月から始まりましたが、仕事の関係で私自身は6月から訓練に合流。初めは、サポートしてくれる団員に迷惑ばかりかけていましたが、分団長や団員に丁寧に教えてもらっていると、「この期待にこたえたい」という気持ちになってきました。

この訓練を通じて分団の一員になれたと思います。良い先輩、良い後輩がいる今の分団に入団できて良かったと思います。

今後、実際の火災現場に出勤することもあると思います。先輩から吸収できることは一つでも多く吸収し、気を引き締めて消防団活動をしていきたいと思っています。